

健康医療の協働選書における要件と課題

池谷のぞみ¹⁾, 押田いく子²⁾, 後藤綾野³⁾, 齋藤晶子⁴⁾,
佐藤晋巨⁵⁾, 須賀千絵⁶⁾, 田村俊作¹⁾, 柚木聖⁷⁾

¹⁾慶應義塾大学文学部, ²⁾東邦大学医学メディアセンター, ³⁾けいゆう病院,
⁴⁾河北総合病院健康生活支援室, ⁵⁾聖路加国際大学, ⁶⁾実践女子大学, ⁷⁾浦安市立図書館

市民への健康医療情報サービスは公共図書館にも広がりつつある。医療という専門領域において、新しくかつ信頼性の高い蔵書を健康医療分野で保つことは容易ではない。これまでこの課題について、館種を超えた図書館員が協働でこの課題に応える試みがなされてきた。本発表では、こうした試みを分析し、その意義と課題を明らかにし、現在科研のプロジェクトにおいて検討を始めている協働選書の試みを提示することを目的とする。

公共図書館が市民に向けて健康医療情報を提供する際の困難として挙げられるなかで上位のものが、選書やレファレンス・サービスの難しさである。これは専門性の高さによるところが大きい。特に情報源の選定にあたっての難しさには、健康医療関係の情報源は内容のレベルが大きく異なる点が挙げられる。たとえば図書のなかには専門家向けのものでわかりやすい工夫がなされているものもあれば、一般向けとして刊行されたものでも工夫のされ方の程度はさまざまである。さらに、情報の新しさを適切に維持していくことは容易ではない。さらに、病気のことや治療方法のことだけでなく、患者自身によるケアや経済的な側面など、選書の対象範囲は幅広いことも選書の課題として考えられる。

こうした、健康医療情報を市民向けに選択する際に考慮が必要な点は、公共図書館のみならず、患者図書室でも共有された課題であることは知られている。これまでも、館種を超えて、これらの課題に協働で取り組む試みがなされてきた。あらためて分析したところ、こうした取り組みは大きく四つのタイプに分かれることが明らかになった。1) 公共図書館員が中心となって医療情報専門司書を巻き込む形、2) 医療情報専門司書組織が中心になって広く公共図書館司書に知識共有・提供する形、3) 地域ネットワークに基づく知識共有、4) 医療情報専門司書組織が主に会員向けに知識提供する形である。取り組みを通じて、最新の良書リストを提供することが可能となり、個々の図書館における選書の負担が軽減されて来た。しかしながら同時に、1)良書リストの作成自体の労力が大きく、2) 公開リストを継続的に更新することは容易ではない、3)作成されたリストは館種ごとの協会に蓄積され、会員向けに提供される傾向もあることがわかった。

そこで私たちのプロジェクトでは、これまでの協働的取り組みを踏まえ、かつそれを補うような、実現可能な方法を探ることにした。館種を超えた図書館員と科研の共同研究者が共に検討を重ね、以下のような要件を備えた協働選書のしくみを作ることにした。1)図書館員が選書をする際に、参照可能な図書と情報源のリストを継続的に作成するしくみを作る、2)「本を持ち寄って紹介し評価」することをインターネットで実現することを探る、3)市民の健康支援のための価値互酬型サービスを支える知識共同体の醸成の場を作ることをめざしている。これから検討すべき課題は多いが、現段階での検討結果を提示する。

*本研究は JSPS 科研費 15H02788 の助成を受けたものです。